

CSR 報告書 2016



- | | | | |
|--|---|--|---|
| 
白金、Platinum
触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。 | 
金、Gold
装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。 | 
銀、Silver
銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。 | 
パラジウム、Palladium
水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。 |
| 
ロジウム、Rhodium
塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。 | 
イリジウム、Iridium
硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のつぼにも使用されている。 | 
ルテニウム、Ruthenium
水から水素を発生させる光触媒として活躍。ハードディスクの記録容量の増加に貢献。 | 
オスミウム、Osmium
バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。 |



CONTENTS

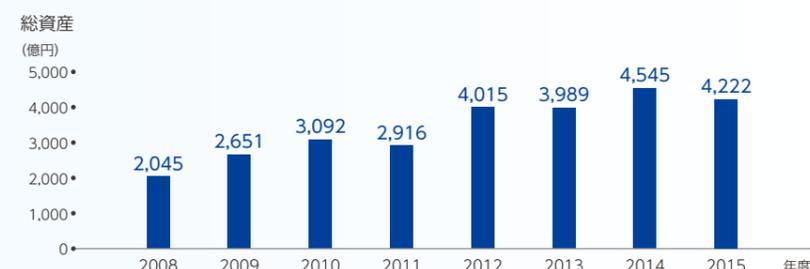
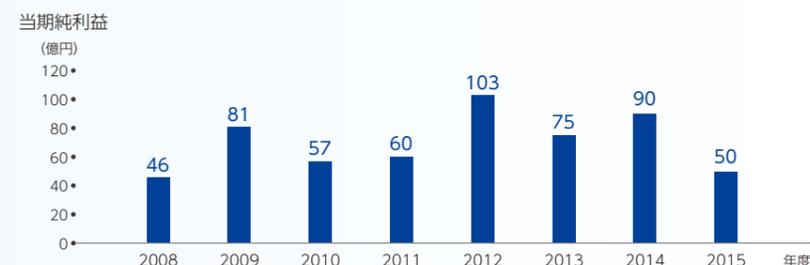
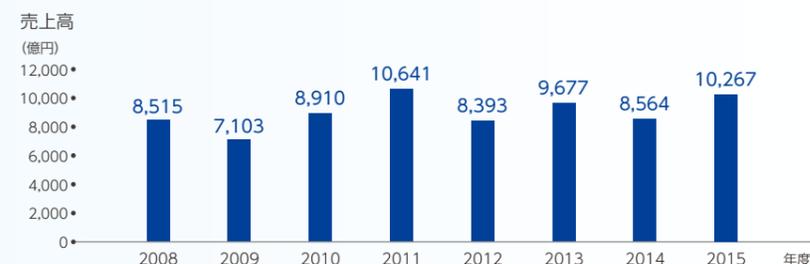
- 00 企業理念／行動指針／業績
- 02 トップメッセージ
- 04 田中貴金属グループについて
- 06 組織統治
- 08 人権
- 09 労働慣行
- 12 環境
- 16 公正な事業慣行
- 18 消費者課題
- 20 コミュニティへの参画及び
コミュニティの発展
- 22 CSRパフォーマンス
- 23 第三者保証
- 24 第三者所感
- 25 田中貴金属グループより

田中貴金属グループの業績

■業績要約

	2014年度	2015年度	前年度比
売上高	856,449	1,026,707	119.9%
税引前利益	13,736	8,801	64.1%
当期純利益	8,989	5,030	56.0%
総資産	454,541	422,205	92.9%
自己資本比率	40.7%	43.8%	—

百万円



田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

企業理念

TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待に、スピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。

行動指針

TANAKA人 5カ条
私たちは、お客様から選ばれ続けるため、
常に感動を創出し、謙虚に学ぶことを忘れず、
日々、5カ条を実行します。

- 1.あいさつ *Greetings* 心を込めた挨拶で、信頼の絆を結びます。
- 1.えがお *Smile* 明るくのびのびと、笑顔で輝き続けます。
- 1.かんしゃ *Thanks* 感謝の心で、ゆたかな人間力を育みます。
- 1.あんぜん *Safety* 安全を最優先し、最高の仕事をします。
- 1.ちょうせん *Challenge* 柔軟な発想で挑戦し、夢を実現します。

TANAKA

GOGO計画2020

2020年の田中貴金属グループのありたい姿

自由闊達な企業風土を継承し、
貴金属事業の3本柱の更なる推進により
グローバル企業に成長・発展している

ありたい姿

現状

あるべき姿

2015年度

2017年度

2020年度



グローバルに輝き、永続する企業となるために、 2020年、そしてその先も見据えた活動を 強い決意を持って推進しています。

「GOGO計画2020」がスタート

2015年度はまさに田中貴金属グループにとって大きな節目の年となりました。新しい中期経営計画である「GOGO計画2020」がスタートし、「自由闊達な企業風土を継承し、貴金属事業の3本柱のさらなる推進により、グローバル企業に成長・発展している」という「ありがたい姿」に向け、本格的な活動を開始しました。そのための本年度の大きなトピックスは、2015年10月に行ったカンパニー制の導入による組織改編です。その大きな目的は決裁権限を各カンパニーへ委譲することで、お客様の要望に対し効率的かつ迅速にお応えすることにより、サービスの質を

向上し2020年の目標である「G30(グローバルでトップシェア製品を30品目揃える)+CS(顧客満足度) No.1」の達成を目指すことです。今後も社是にあります通り、「良い物を早く安く作って(少人化して)お客様に喜んでいただくための工夫と相互信頼の基盤に立った活動」を進めていきたいと考えております。

社会環境の動向と田中貴金属グループのスタンス

2015年度を振り返りますと、やはりリスクというもの意識せざるを得ない事件が多く発生した年でもありません。国内では5月に岩手県で震度5強の地震が、さらに箱

根大涌谷や口永良部島では火山の噴火など、自然災害が続きました。海外ではネパールにおいて大地震が発生し多くの犠牲者が出ています。自然災害が我々にとって常に意識しなければならないリスクであることを改めて思い知らされました。

また自然災害以外にもさまざまな事件が発生しました。マンション建設において、工事業者が杭の打ち込み不足を隠すために工事データの流用を行うなどの不正が明らかになり、また2020年に行われる東京オリンピックのエンブレムが海外の劇場のロゴマークと似ているということで撤回されるなど、企業または個人の社会的責任が問われる事件も相次ぎました。不祥事による信用の失墜は企業にとっては非常に大きなリスクです。このような事件を目の当たりにすることで、リスクを回避するためには内部統制システムの構築が不可欠であることを改めて認識しました。

一方、明るいニュースに目を向けますと、日本人研究者のノーベル生理学・医学賞及び物理学賞の受賞や、ラグビー日本代表の活躍など、世界に挑戦する日本人が素晴らしい結果を出した年でもありました。田中貴金属グループの経営スタンスは「お客様を大切に」「貴金属にこだわる」「先見性を備えて挑戦する」ことです。これらの輝かしい成果を挙げた方々のように、企業として挑戦し続け、良い製品を供給するという結果を出し、社会的責任をしっかりと果たしていきたいと考えています。

リスクマネジメントのさらなる強化

2015年度のCSR推進活動の中で特に大きなトピックスは、従来から尽力してきたリスク管理をさらに推進すべくリスクマネジメント委員会を設立したことです。この委員会はグループを統括管理するTANAKAホールディングス(株)の各本部長により構成され、監査役の同席のもと田中貴金属グループ全体のリスクを監視する重要な位置付けとしています。この委員会では、独禁法違反、マネーロンダリング、個人情報漏洩などさまざまなリスク発生の可能性を精査し、企業として公正な事業を推進すべく、その対応組織の整備を進め、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識が向上する環境を作り上げていきます。また、自然災害の発生に備え、BCM(事業継続マネジメント)体制の機軸として、BCP(事業継続計画)委員会を設立しました。BCPに関してはまずは自然災害への対応からスタートしますが、将来的には原因に係わらず事業継続という観点からPDCAを回していくことを目標に活動してまいります。

社会貢献、安全衛生、環境管理の各活動を強力に推進

社会貢献活動は2015年度も「障がい者の方々へのスポーツ普及支援」をモットーに、日本障がい者スポーツ協会への協賛を行い、従業員がボランティアに駆けつけるなど障がい者の方々との交流を図りました。その活動が評価され、東京都のスポーツ推進モデル企業13社の中の1社に選ばれました。田中貴金属グループ各社においても活発な社会貢献活動を実施しております。

安全管理活動につきましては、安全第一をモットーに活動を続け、田中貴金属グループの労働災害年千人率(従業員千人当りの労働災害発生率)は全製造業の平均と比べ1/3以下となっております。これは、安全を最優先し従業員満足度(ES)向上を目指す田中貴金属グループの取り組み姿勢が結果として出た数値であり、今後も労働災害ゼロを目指し従業員一丸となって活動してまいります。

環境管理活動につきましては、環境負荷低減技術である燃料電池用触媒の製品化や、湘南工場の廃棄物削減の取り組みが評価され、環境大臣より「環境保全功労者表彰」を受賞しました。また田中貴金属工業(株)平塚・伊勢原・湘南各工場のCO₂排出量削減活動及びその結果が評価され、神奈川県より「かながわ地球環境賞」を受賞しました。CO₂排出量につきましては既に、2006~2008年平均から22%削減しておりますが、2015年に開催されたCOP21にて設定された新たな目標値を基準に、それを上回る田中貴金属グループ独自の新たな目標値を設定し活動を開始することとしております。

サステナビリティを強く意識し、永続する企業を目指す

田中貴金属グループは1885年に田中商店として創立し、「GOGO計画2020」完了の年には創業135年を迎えます。今後もサステナビリティを強く意識し、200年、300年と続く企業を目指してまいります。この言葉は昨年度のCSR報告書に掲載いたしました。私の決意の言葉として本年度も掲載させていただきます。

本CSR報告書は2015年度の活動はもとより田中貴金属グループが今後目指していく内容を掲載するものです。是非ご一読いただきサステナビリティに対する田中貴金属グループの強い意気込みを感じていただければ幸いです。

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長 執行役員

田中 明

世界におけるTANAKA

田中貴金属グループは、3つの分野（産業用、資産用、宝飾用）における研究開発・生産・販売等の拠点を、日本およびアジア諸国、北米、欧州に展開しています。

田中貴金属グループの事業及び主要製品

産業用

産業の発展を支える貴金属の可能性を最大限に追求しています。近年は、世界的に重要度の高まる医療や環境・エネルギーの領域に注力しています。

- AuAg系事業 ●化学回収事業 ●PGM系事業 ●HDターゲット事業
- 触媒開発事業 ●ボンディングワイヤー ●めっきプロセス



電気接点



貴金属回収

資産用

貴金属を資産としてご利用いただくために、確かな品質の金やプラチナの地金(じがね)やコインを製造・販売するほか、積立プランも提供しています。

- 地金(じがね) ●コイン
- 積立プラン



資産用金地金

宝飾用

人生のさまざまなシーンを輝かせる宝飾品を、長く愛するにふさわしい確かな品質で提供しています。

- ジュエリー ●工芸品
- 記念品・贈答品 ●買取・リサイクル



プラチナマリッジリング

田中貴金属グループ国内拠点



TANAKAホールディングス株式会社(THD)

- 本社(東京) ●大阪本社

田中貴金属工業株式会社(TKK)

- 本社(東京) ●TANAKA物流センター ●岩手工場 ●富岡工場 ●市川工場
- 袖ヶ浦工場 ●伊勢原工場 ●平塚工場 ●湘南工場 ●平塚テクニカルセンター
- 筑波事業所(テクニカルセンター) ●伊勢原テクニカルセンター ●FC触媒開発センター
- 仙台支店 ●名古屋支店 ●大阪支店 ●岡山支店 ●福岡支店 ●滋賀営業所

田中電子工業株式会社(TD)

- 佐賀本社工場
- 東京事務所
- 湘南分工場

日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社(EEJA)

- 本社(東京)
- 平塚事業所

田中貴金属ジュエリー株式会社(TKJ)

- 銀座本店 ●新宿店 ●ホテル椿山荘東京店
- 横浜元町店 ●仙台店 ●新潟三越店 ●名古屋店
- 栄店(ブライダル専門店) ●心斎橋店
- 高松三越店 ●福岡 西鉄グランドホテル店

ティーシーキャタリスト株式会社(TCC)

- 本社(東京)
- 筑波研究所

株式会社日本ピージーエム

- 本社(東京)
- 小坂工場

田中貴金属グループ海外拠点

田中貴金属工業株式会社(TKK)

- 台湾田中貴金属工業股份有限公司 ●田中先端有色金属材料(杭州)有限公司 ●田中先端有色金属材料(寧波)有限公司
- ソウル支店 ●香港支店 ●台北支店 ●高雄営業所 ●マニラ支店
- 田中貴金属(上海)有限公司
- 本社(上海)
- 深圳支店
- 田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社
- 本社(シカゴ)
- サンノゼ支店
- 田中貴金属インターナショナル(タイランド)株式会社 ●田中貴金属インターナショナル(欧州)有限公司
- 田中貴金属インターナショナル(マレーシア)株式会社 ●田中貴金属(シンガポール)株式会社 ●TANAKA America, Inc.

田中電子工業株式会社(TD)

- 田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd. (TES) ●台湾田中電子股份有限公司 (TET)
- 田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. (TEM) ●台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター (TET/TC)
- 田中電子(杭州)有限公司 (TEC)

日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社(EEJA)

- EEJA(Shanghai)Co.,Ltd.

喜星金属株式会社

成都光明田中環技術有限公司

株式会社日本ピージーエム

- NIPPON PGM AMERICA, Inc.
- NIPPON PGM EUROPE S.R.O.

成都光明派特貴金属有限公司

グローバル企業にふさわしいガバナンス体制と、ISO26000を基軸としたCSRの推進

コーポレート・ガバナンス体制と内部統制システム

基本的な考え方

田中貴金属グループは、健全で透明性の高い経営を実現するために経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業集団となることを目指しています。

また全てのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し内部統制の原則を定めています。この体制と原則に基づき経営目的の達成に向けた内部統制システムの中で取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部が確実にそれぞれの役割を果たしています。

取締役会(取締役)

変化の激しい経営環境に効率的に対応すること、および経営責任を明確にするためグループ各社の取締役の任期は1年としています。TANAKAホールディングス株式会社の取締役会は、自らはもとよりグループ全体の業務執行に関する基本方針を決定します。また各社取締役会は、重要事項の決定のほか業務執行状況につき報告を受けることにより、取締役の業務執行を監督します。

グループ経営委員会

グループ全体に関する重要事項やグループ各社間の調整が必要な事項に関し、取締役会における審議・運営を円滑なものとするため、グループ経営委員会にて各事項の審議・裁定・調整・承認を行います。またグループ各社の社長が出席することから各社の活動報告並びに情報共有を目的の一つとします。

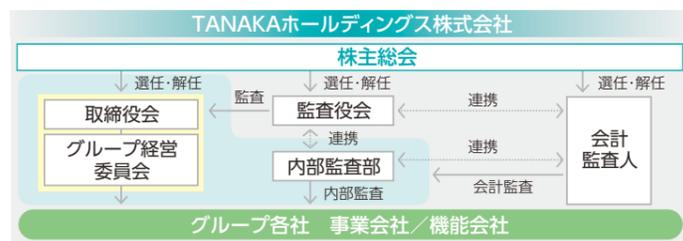
監査役会(監査役)

TANAKAホールディングス株式会社は、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行いまたは決定するため、監査役全員による監査役会を設置しています。監査役は主に取締役の業務執行を監視する役割を担いますが、経営の客観性を確保するため監査役のうち一名は社外から選任されます。

内部監査部

内部監査部は、グループ各社の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、公正かつ独立した立場から、業務が適正かつ効率的に実施されているかを評価・検証し経営層に提言する役割と責任を負っています。また監査役会や会計監査人と定期的に意見交換を行うことにより相互連携を確保しています。

■コーポレート・ガバナンス体制



CSRマネジメント

田中貴金属グループは企業理念の下、貴金属のリーディングカンパニーとして、健全な事業活動を推進し、さらに地域社会の一員として社会的責任を果たすことに努め、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献します。そのために、社会的責任の国際規格であるISO 26000に基づくCSRマネジメントを、CSR・広報本部と各拠点が連携して積極的に進めています。

組織改編によるカンパニー制の導入

2015年10月、従来の事業部制を6つのカンパニーに再編成し、製造・販売・技術開発を1つのカンパニーとしてまとめ、権限の委譲を見直しました。これは事業判断のスピードを向上させ、お客様の要求にすばやく対応することで顧客満足度を向上することをねらいとしています。各カンパニーではプレジデント、ヴァイス・プレジデントが陣頭指揮に当たり、課題を明確に示しカンパニー単位で目標達成を目指します。

行動憲章・行動規範の周知

企業活動において守らなくてはならない事項を示し、社員一人ひとりが見たい時にいつでも確認できる環境を整えています。新入社員や通年採用の社員に対しては研修にて、また各事業場では朝礼等の機会を利用して行動憲章・行動規範の解説を行っています。日常業務で実行することで「透明で健全な会社」を実現していくように呼びかけています。

内部統制システムの基本方針

会社法の改正及び組織改編に伴い2016年4月までにTHD及びグループ内各社の内部統制シス

テムの基本方針を改定しました。グループ各社の経営管理・コンプライアンス・リスク管理・反社会的勢力への対応・内部監査等の体制を含む田中貴金属グループ全体の内部統制システムを整備することによって業務の適正さを確保し、企業価値の向上に努めていきます。

リスクマネジメント委員会

2015年10月にリスクマネジメント委員会を発足させ、事業継続に影響を及ぼすリスクの洗い出し・評価・対応策を決定する体制を構築しました。PDCAを確実に回すことによって、リスクの早期発見・発生可能性の低減・発現時の被害の抑制を行います。

BCP(事業継続計画)委員会

2015年10月にBCP委員会を発足させ、従来の事業継続計画書、BCP管理マニュアルを見直しました。いつ発生するかわからない災害に対してそれぞれの場合の対応を想定し計画を再構築し、今年度は対応訓練を実施して問題点を把握しさらなる改善を加え、いざという時に事業が継続できるよう準備を進めていきます。

防犯警備規定・基準の見直し

2016年2月に社内防犯警備の規定・基準を大幅に見直しました。グループ内にはいくつかの異なった業態があり、製造工場と貴金属装飾品を販売する店舗とでは防犯警備に対する考え方や方法が異なります。そこで警備に関する基本的な考え方を標準化するために見直しました。さらにグローバル化の推進による海外企業との取引増加に対応するため、今後は海外拠点を含めたセキュリティ強化を推進していきます。

■CSRマネジメント体制



海外事業展開の拡大を踏まえ、 国境を越えて 人権尊重の意識を醸成

メンタルヘルスへの対応

社員の心の健康問題は本人や家族、職場及び社会に与える影響が、近年ますます大きくなっており、メンタルヘルス対応は、企業経営において重要な課題となっています。4つのケア(セルフケア・ラインケア・保健スタッフによるケア・外部機関によるケア)を通してメンタルヘルス不調を未然防止する取組みを実行しております。2015年度は社員一人ひとりが自身のストレスに早く気づき対処する知識を身に付けるためのセルフケア教育を、産業看護職が作成した教育資料を用いて全ての事業場で実施しました。その結果、セルフケアに関する知識を身につけることはもちろん、看護職に健康相談がしやすくなりました。今後もメンタルヘルス対策を継続的に実施し、社員が明るくのびのびと前向きに仕事ができる職場環境づくりを進めていきます。

紛争鉱物問題への取り組み

紛争鉱物問題に関する米国金融規制改革法(ドッド・フランク法)の1502条が施行され、非人道的行為と武装勢力の資金源を断つことを狙い、コンゴ民主共和国およびその周辺地域で採掘された紛争鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)の使用状況について調査し、顧客に報告することが必要となりました。

田中貴金属工業(株)は、原材料調達における金に係る取引上のリスク管理を行い、人権侵害、テロ、マネーロンダリング、不正取引等が横行する紛争地域等の高リスク地域からの調達を回避するため、2012年6月に「紛争鉱物管理方針」を制定し、紛争フリーによる原材料調達を推進しています。2014年6月には、LBMA※レスポンシブル・ゴールドガイドラインに基づく第三者機関によるマネジメントシステム監査に合格し毎年更新しています。



※The London Bullion Market Association ロンドン地金市場協会
<http://www.tanaka.co.jp/about/trust.html>

TANAKA NOW

私たちが扱っている貴金属が生産国の幸せに繋がっていないとしたら、また知らないうちに紛争に関わる組織の資金集めに間接的に加担しているとしたら。貴金属は採掘・製品製造・回収というサイクルを通して還流していきます。テロや反政府活動にその代金が流れたり、劣悪な環境で子供が採掘に関わっていた貴金属を知らず知らずのうちに取り扱うことを禁じなければなりません。取引先を知ること、つまりKYC(Know Your Customer)を徹底させ、紛争に加担しないことを宣言することで、それらが生産ラインに紛れ込むことを防ぐ取組みを行っています。これはグローバルに活躍する企業の責任の一つでもあります。

TANAKAホールディングス株式会社 貴金属本部 国際企画部 原田 和佳子



多様な人材が活躍できる 環境づくりに向け、 体系的・計画的な教育を実施

未来の理系女子を応援

経団連の「女性活躍アクション・プラン」における理工系女性人材育成のための「理系職場体験・見学会」の主旨に賛同し、職場体験・見学会「夏休みリケ女ツアー in TANAKA」を田中貴金属工業(株)平塚テクニカルセンター、湘南工場で2015年8月に実施しました。当日は、平塚地区周辺在住の女子高校生5名が参加し、実際に分析装置を使った分析体験や、本物の金やプラチナの地金(インゴット)に直に触れるなどの体験をしました。理系女性社員たちと一緒に昼食をとり、仕事の話の他、会社内のサークル活動や休日の過ごし方など多岐にわたる意見交換をしました。参加者からは「化学の分野でどのように貴金属が使われているかなどがわかってよかった」といった感想があり、対応した理系女性社員たちからは「文系、理系を選択する時期に、このような場があることはいいなと思った」などの感想がありました。



障がいのある方の採用

2年間にわたり神奈川県の特設支援学校より、障がい者の工場実習を受入れ、2016年4月1日には3名の新社員が入社しました。加えて、現在も2名の方が工場実習中です。引き続き、障がい者雇用率2%の達成を目指した活動を継続します。

●田中貴金属グループ社員情報(2016年3月末現在)

国内 社員数	2,734人	(2,717人)
男性	1,895人	(1,870人)
女性	839人	(847人)
平均年齢	42歳	(42歳)
男性	42歳	(43歳)
女性	41歳	(40歳)
障がい者雇用率	1.68%	(1.70%)
海外 社員数	792人	(794人)
社員総数	3,526人	(3,511人)

※()内は前年度

●育児休業等制度の利用人数(2015年度)国内のみ

妊娠時短時間勤務	6名	(2名)
育児休業	56名	(45名)
育児短時間勤務	55名	(53名)

※()内は前年度

人材育成

2016年度より「管理者研修」をリニューアルします。新たな「マネジメント研修」では、管理職として必要な知識、スキルを段階的に学びます。また、「新任社長研修」「取締役・執行役員研修」の新設、幹部社員の「ビジネススクール派遣」など役職が上の者こそ率先して学び、組織の活性化を図ることができる研修体制がスタートします。

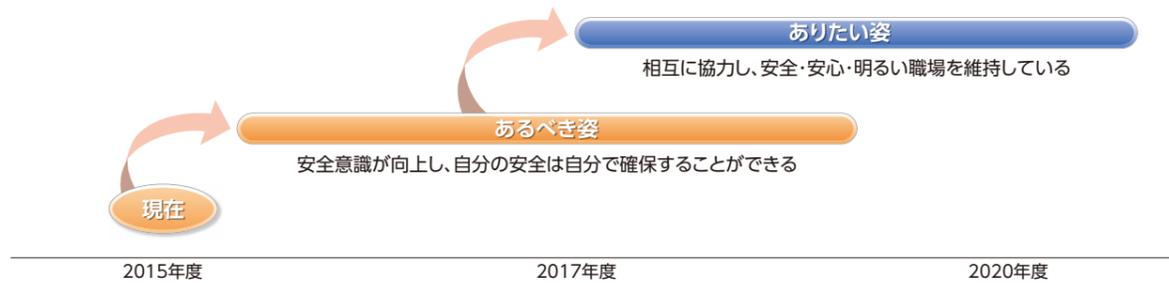
2015年度(国内のみ)
育児休業取得者数

56名



GOGO計画2020 中央安全方針

“安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する”



中期経営計画「GOGO計画2020」に基づいて設定された、2017年度の「あるべき姿」、2020年度の「ありたい姿」を目指し、中央安全方針「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」の下、安全管理活動を推進します。

安全活動

2015年度は中期経営計画「GOGO計画2020」の初年度として、改めて「全社員が知恵を出し合い、安全安心な職場を目指した活動を行うと同時に、従来通りの安全管理活動を推進」しました。残念ながら労働災害発生件数は前年度の約1.4倍の23件となりましたが、休業4日以上が2件、休業3日以下が4件で、それ以外は全て不休災害となっています。交通事故は従来よりそのほとんどが通勤時及

びプライベートでの事故で、2015年度は前年と同数の59件と、3年連続してほぼ60件となりましたがそのうち被害事故が半数以上を占める状況は変わっていません。

労働災害、交通事故、いずれも一人ひとりの安全感、安全意識の向上が重要であると考え、安全教育の充実など安全管理活動を推進していきます。

安全診断

2014年度に減少した労働災害が再び増加する傾向となったため、中災防の安全管理士による安全診断を全生産工場にて実施しました。各生産工場にて原則として、1日の安全診断を受け、安全管理者等が日ごろの巡視では見逃している不安全状態、不安全行動の指摘を受けることができました。さらに、巡視の際の基本的な考え方についても新たな知見を得ることができました。災害ゼロを目指して安全管理活動をさらに推進します。

安全管理士のコメント例

金属切断機の両手操作式の操作ボタンは、両手を使わないと絶対に操作できないことを担保する必要があります。しかし、本装置では肘や膝等で片手操作が可能となっており、危険な状態です。



金属切断機の両手操作ボタン

健康チャレンジ

近年、企業経営において社員の健康管理はますます重要視され、また、心疾患、高血圧、糖尿病等の生活習慣病やがん等の成人病は早期発見による治療が可能となり、早期の予防対策が必要です。定期健康診断はもちろん、社員の健康維持と向上、および疾病予防に取り組む環境を整えることが企業にとっては重要です。健康管理意識調査により健康に関心がある反面、健康増進への取り組みはなかなかできていないことがわかったことから、そのきっかけを作るための活動を企画・実行しました。「禁煙キャンペーン」は喫煙者が主体ですが、禁煙者からの応援メッセージ募集などを行いました。新たな取り組みである「健康チャレンジ」では、食事や睡眠の改善及び体力づくりなど個人で無理なく出来る項目を選択して2ヵ月間実施し、結果を記録してもらいました。今後も健康増進活動を通して、社員一人ひとりが健康に関心を持ち、明るい職場で働ける環境を整備していきます。

一人ひとりの安全感、安全意識のさらなる向上へ

化学物質リスクアセスメント

2016年6月から施行される化学物質のリスクアセスメント(RA)実施に対応するため、従来のRA表を見直しました。環境管理者を中心とした分科会活動で、環境異常撲滅のために環境設備のRA実施手順を検討しました。その成

果として、安全で使用していたRA表を、衛生、環境に関しても同じRA表で実施できるように改訂し、SHEリスクアセスメント表としました。

※SHEは安全・衛生・環境の略

TANAKA NOW

2016年2月より、伊勢原工場安全管理者になりました。やりたいことやなければならないことが沢山ありますが、2016年度伊勢原工場安全方針「従業員が安心して働ける安全な職場づくり」をいつも考え、活動していきたいと考えています。昨年度、交通事故・重大ヒヤリハット・人的災害が多かったことを踏まえ、安全な職場を工場全員で作っていく思いです。

田中貴金属工業株式会社 伊勢原工場 加藤 雄司



労働災害
(休業4日以上)

2件



GOGO計画2020 中央環境方針

“国内における、環境リーディングカンパニーになる”



中期経営計画「GOGO計画2020」に基づき設定された、2017年度の「あるべき姿」、2020年度の「ありたい姿」を目指して中央環境方針の「国内における、環境リーディングカンパニーになる」ための環境管理活動を推進します。

環境マネジメントシステム

国内全生産拠点で環境マネジメントに関する「ISO14001」の認証を取得し、地球温暖化の防止活動、廃棄物発生量の抑制活動など、PDCAサイクルを回して、継続的な環境保全活動を実施しています。

特に、CO₂排出量削減、廃棄物排出量削減、環境異常撲滅活動については、グループ全体の目標を定め積極的に取り組んでいます。

各事業場長で構成される中央環境委員会をグループ最上位とした組織体制を構成し環境保全推進活動を効率的、確実に実行しています。また、SHE推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有及び積極的な意見交換を重ねています。

●環境保全推進体制



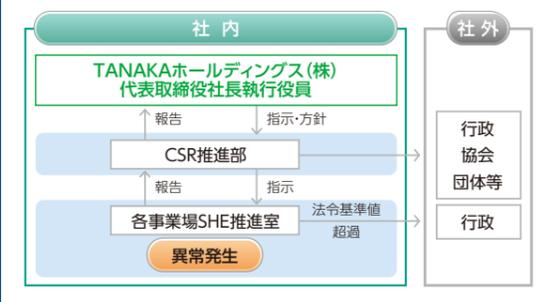
環境コンプライアンス

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などを未然に防止するため、法規制遵守はもとより、法規制よりもさらに厳しい自主基準値を設け、環境負荷の低減と未然防止に努めています。

特に大気及び水質等については原則として法令基準値の2分の1を限度とする厳しい社内管理値を設定しています。

異常発生時には迅速に対応し、再発防止に努めています。また、啓発のために社内「速報」による情報伝達を行うと共に、「通報・届出基準」に基づく関係行政当局への連絡体制を確立しています。

●異常発生時の対応体制



CO₂排出量削減への取り組み

地球温暖化防止に貢献するため、生産活動におけるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2015年度のCO₂排出量は、建屋増設及び生産量の増加により、2013年、2014年度とほぼ同程度となりました。

各事業場においては、引き続き、省エネ委員会などによる運用管理を中心とした省エネルギー活動を推進しております。設備の運転条件最適化や照明のLED化、高効率の空調機器へ更新など、さまざまな省エネルギー対策を実施しました。



注)各年の電力量をCO₂に換算する際の係数を0.406kg-CO₂/kWhにて固定して活動の進捗状況が把握できるように計算しています。

筑波事業所の省エネ事例

筑波事業所では、25年間使用し老朽化した冷暖房空調用の吸収式冷温水発生機から、省エネ効果の大きな高効率型の冷温水発生機に入れ替えました。さらに、冷却水循環ポンプ、冷却塔等も高効率型に更新したことで消費電力を削減することができました。(CO₂は約9t/年削減)



冷温水発生機

冷却塔

かながわ地球温暖化対策大賞を受賞

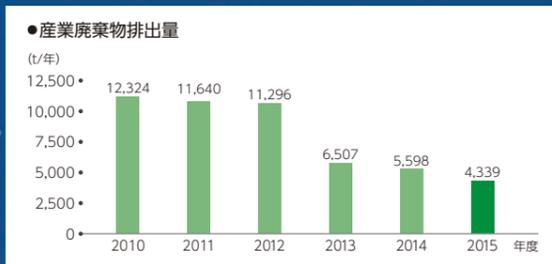
神奈川県内にある田中貴金属(株)の平塚工場、湘南工場、伊勢原工場の3工場のCO₂削減活動への取り組みが評価され「温暖化対策計画書部門」で受賞しました。照明や空調等の設備を省エネ効果の高い設備へと更新すること等により、2013年度CO₂排出量が、神奈川県が定めた基準年度(2009年度)排出量に比べて20%の削減を実現したことが受賞理由です。

美しい地球を
後世へ継承するために

産業廃棄物排出量削減への取り組み

田中貴金属グループの産業廃棄物は、貴金属の溶解や精製及び貴金属廃液からの貴金属の回収の際に発生する酸やアルカリが化学工場から多く発生しているのが特徴です。

3R(リデュース、リユース、リサイクル)を基本とした、産業廃棄物発生量を削減する活動を推進しております。2015年度の産業廃棄物排出量は、2014年度より1,259t削減できました。



環境大臣賞「環境保全功労者表彰」を受賞

有害廃液の無害化や貴金属回収技術による廃液の大幅削減を行うなど環境対策に取り組むとともに、早くから貴金属に係る技術を活かし燃料電池用触媒の開発を進め、燃料電池の普及に貢献したことが評価されました。



湘南工場の産業廃棄物削減事例

田中貴金属工業(株)湘南工場では、シアン廃液が全産業廃棄物の90%を占めており、金めっきの原料となる化学製品の製造、またはお客様で使用した貴金属めっき液からの貴金属回収における工程において廃液が多量に発生する

ため、従来から産業廃棄物として処理を行っていました。

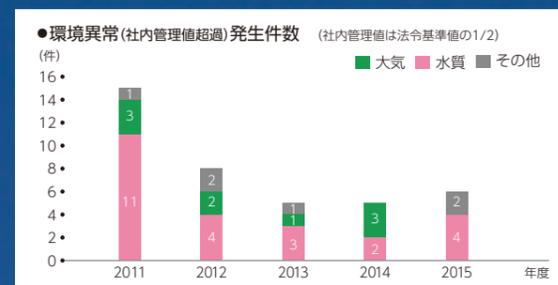
解決策として、シアン廃液から水分を蒸発させ固形のスラッジになるまで濃縮し、高温の電気炉でシアンガスが発生しない条件で焼成・分解することにより、産業廃棄物としてのシアン廃液量は改善前の年間約2,000tから改善後はゼロ、と大幅に削減することができました。

また、PRTR(化学物質排出移動量届出制度)において、無機シアン化合物の産業廃棄物量は2012年度に2,500kgでしたが2013年度85kg、2014年度9kg、2015年度38kgと大幅に削減しています。



環境異常発生状況

2015年度は、環境異常(社内管理値超過)は、6件発生しました。水質に関する異常が4件、その他の異常が2件ありましたが、即時、対策を実施し再発防止に努めています。



TANAKA NOW

宝飾品から身近な家電製品に至るまで、私たちの生活に欠かせない貴金属。限りある資源を有効に活用し、次世代につなぐために我々リサイクル化成産品営業部は混ぜればゴミ、分ければ資源ということを理解し活動しています。お客様の生産現場からゴミは出さないの考え方のもと、日々お客様を訪問し貴金属のリサイクル、再製品化のお手伝いをしております。

「家族に誇れる仕事」「世界に誇れる仕事」を胸に刻んで今日も飛び回っています。

田中貴金属工業株式会社 化学回収カンパニー リサイクル化成産品営業部 小林 純



田中貴金属グループの貴金属リサイクル

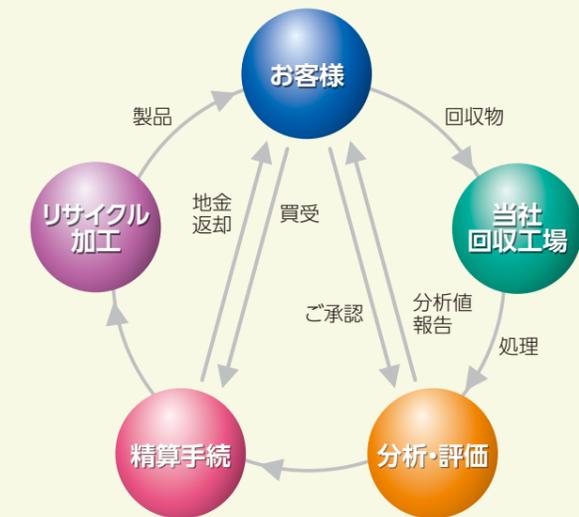
TANAKA Recycle System

貴金属はさまざまに姿・形を変え、私たちの身近に存在しています。田中貴金属グループでは、貴金属を含有したスクラップ・廃液・使用済触媒等を昔から『都市鉱山』という独自の視点で捉え、貴金属リサイクルに取り組んでいます。



貴金属買い受け

信頼・安心・技術

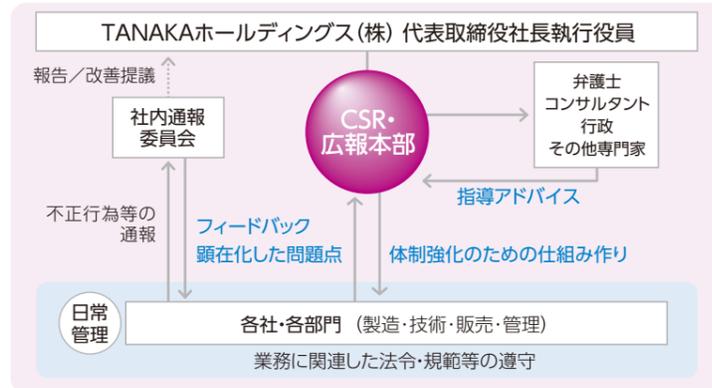


●都市鉱山 あらゆるところで使用されている貴金属

■ **コンプライアンス推進体制**

田中貴金属グループでは、法令を遵守することはもとより、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。コンプライアンスに関する問題点や外部からの情報はCSR・広報本部に集約され、田中貴金属グループ全体に展開しています。

● **コンプライアンス推進体制**



企業倫理に沿った
経営のための仕組みを
グループ全体で運用

■ **社内通報制度**

コンプライアンス違反防止に関する取組みの一つとして、社内通報制度を設け、従業員等からの通報や相談に対し社内通報委員会が調査・是正措置・フォローアップを行っています。通報したことを理由に通報者に不利益な取り扱いを行うことは禁止されています。

■ **知的財産権の保護**

特許権、実用新案権、商標権、意匠権、著作権などの知的財産権およびノウハウは企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的に知的財産権の創出に努めています。新技術の研究、製品・商品の開発、生産および販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害しないことはもちろんのこと、他社からの侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。

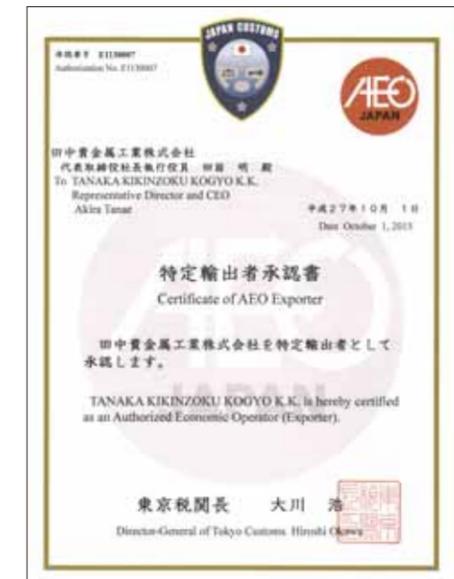
● **2015年度に取得した特許から**

- 特許第5823285号
固体高分子形燃料電池用の触媒及びその製造方法
- 特許第5807992号
ボールボンディング用パラジウム(Pd)被覆銅ワイヤ
- 特許第5768029号
マグネトロンスパッタリング用ターゲットおよびその製造方法
- 特許第5758361号
ノンシアン系金-パラジウム合金めっき液及びめっき方法
- 特許第5735670号
免疫クロマト分析方法、免疫クロマト分析装置および免疫クロマト分析キット

■ **AEO認定事業者としての取組み**

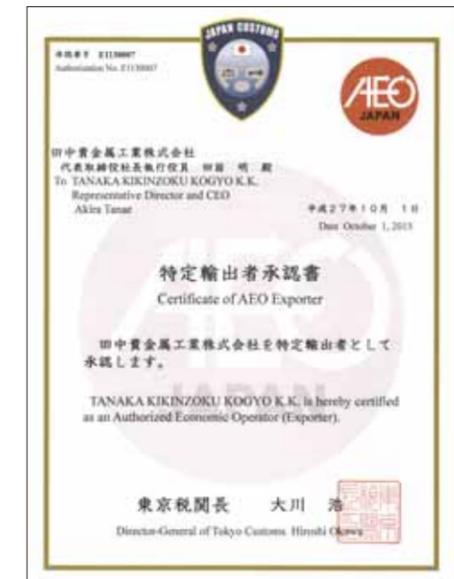
田中貴金属工業(株)はAEO認定特定輸出者として、貨物、輸送、敷地等の安全性の確保、内部監査、委託先管理、税関・社内の連絡体制、教育体制、安全保障輸出管理などのコンプライアンス体制を整備するとともに、AEO総括管理委員会による信頼性の高いセキュリティのもとでの製品の提供を可能としています。2015年度は輸入管理も含めた管理体制の見直しを行い、輸出入管理全般のコンプライアンス強化に努めています。

※AEO(Authorized Economic Operator)制度:
税関当局が国際貿易の安全確保と円滑化を両立させるため、貨物のセキュリティ管理と法令遵守の体制が整備された事業者に対し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



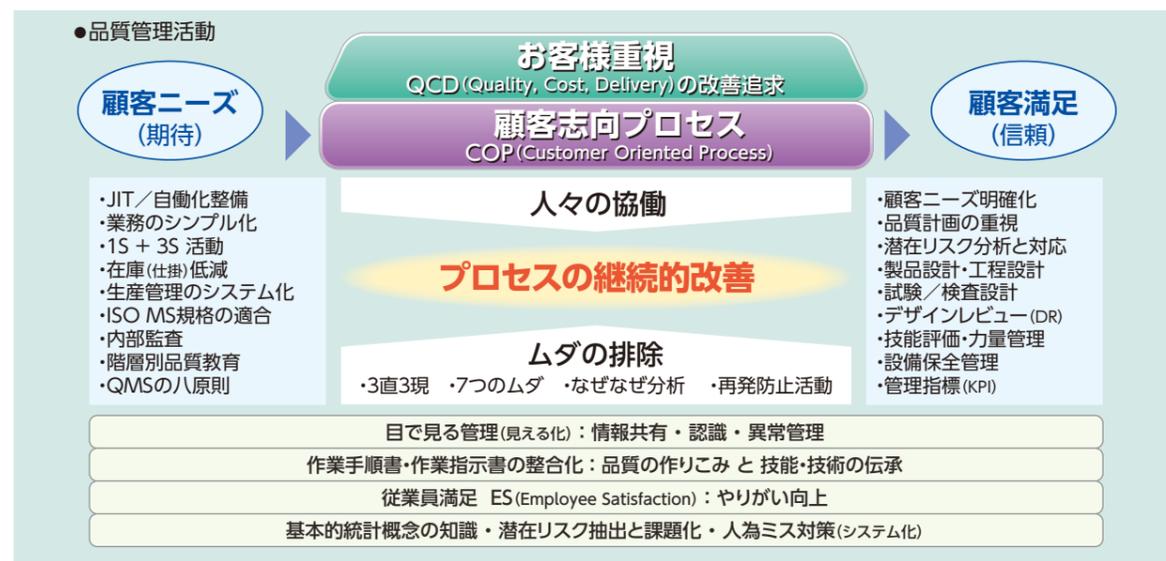
国内特許登録件数
(2015年度)

39件





お客様の満足を、あらゆる角度から追求



グローバル企業を目指した品質管理体制

お客様にご満足いただける安心で安全な製品を持続的に提供するため、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステム(QMS)を構築し、運用しています。また、刻々と変わるお客様の要求品質に迅速に対応し、お客様の信頼と期待に応えていくため、QMSの有効性をレビューしてシステムを改善しています。加えて不具合の予防、並びにばらつき・ムダの低減に重点を置いたISO/TS16949の要求事項を反映させるなど、QMSの継続的改善に取り組んでいます。

個人情報保護管理体制

個人顧客個人情報に対して適切な保護対策を実施するため、TANAKAホールディングス(株)は、2015年7月ISO 27001の認証を取得しました。さらに、マイナンバーを含めた社員情報や取引先の個人情報などもグループ全体で総括的に管理するために、従来の個人情報管理組織をさらに充実しました。対象となる個人情報を個人顧客個人情報、法人顧客個人情報、社員情報に分け、管理責任部署を明確にしました。

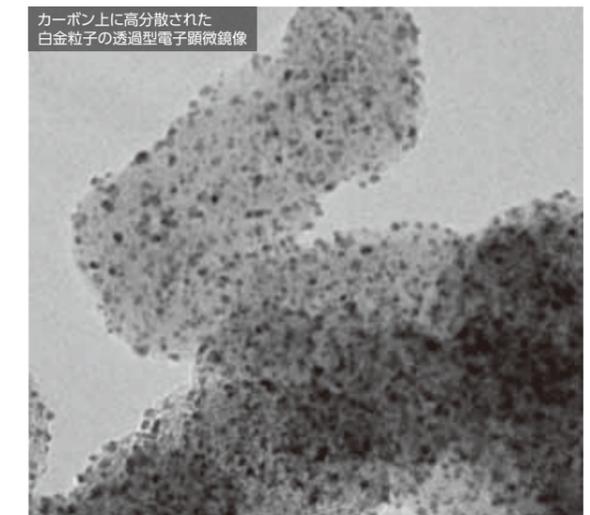


媒、白金ルテニウム合金触媒などが用いられています。

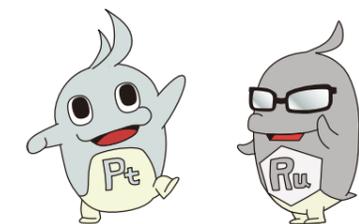
FCは日本政府の水素エネルギー社会への転換の方針、アメリカ・カリフォルニア州のZEV規制などの後押しによりFCは今後の重要な発電デバイスとして着実に市場形成にその開発が進んでいます。

FCの課題は高価な白金をどれだけ減らせるか、に集約されてきています。FC触媒開発センターでは課題達成のために高活性・高耐久性触媒の研究開発・製造を行っています。

※ZEV規制:
メジャーな自動車メーカーは加州で販売する自動車の一定割合をエコカー(ZEV)にしなければならないという法律



20nm



燃料電池(FC)用触媒の開発

貴金属が用いられる分野の中に「触媒」という分野があります。FC用の触媒には白金触媒や白金コバルト合金触

TANAKA NOW

FC触媒開発センターは、燃料電池用電極触媒のリーディングカンパニーとして国内外のお客様に高性能触媒を供給しています。燃料電池の用途は、家庭用、自動車(乗用車、バス、フォークリフト)、バックアップ電源用など多岐にわたります。特に2015年には世界初の燃料電池自動車が市販され今後さらなる市場拡大が期待できます。私たちはお客様の要求(性能、コスト、品質、納期)にお応えするため、日々製造、開発、営業が一丸となって取り組んでいます。来るべき水素社会の実現に向けて私たちが果たすべき役割の大きさをモチベーションに変え、今後も「技術」で貢献していきます。

田中貴金属工業株式会社 化学回収カンパニー FC触媒開発センター 石田 稔



社内外において、コミュニケーションを 活発化し、互いに信頼の絆を強めるための活動

人材育成・文化芸術の発展



アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト(高専ロボコン)協賛
2012年から協賛し、日本のものづくりの
未来を担う若者をサポートしています。
TANAKAホールディングス株式会社

その他

・吉野ケ里ふるさとまつり(舞台セッティング等)企業ボランティアスタッフ
として活動【TD佐賀本社工場】

スポーツ振興活動



日本障がい者スポーツ協会
オフィシャルパートナー
TANAKAホールディングス株式会社



児童養護施設「聖華園」子供達の
県大会へ向けた練習のサポート
2015年5月～8月
参加人数:38人
田中電子工業株式会社

その他

・伊勢原ロータリークラブにてスポーツ振興に貢献【TKK伊勢原工場】
・ベガルタ仙台チアリーダーパートナー【TKJ仙台店】
・地域住民へテニスコート貸出【TKK富岡工場】
・さが桜マラソン2015(給水所、沿道整理等)企業ボランティアスタッフ
として活動【TD佐賀本社工場】

寄付・募金活動



社内フリーマーケットによる売上金の
介護施設への寄付
2015年10月
参加人数:98人
田中電子工業株式会社



分別ごみの資源化による寄付
紙500Kg、プラスチック25Kg、
ダンボール700Kg、金属30Kg
2009/6～継続中
参加人数:100人
田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn.Bhd.



社内フリーマーケットを通じて
学校ポケット基金のための募金活動
2016年3月
参加人数:180人
田中エレクトロニクス・シンガポール Pte.Ltd.



障がい者の手作りお菓子を購入
2016年1月
台湾田中電子股份有限公司



社内フリーマーケットの売上金の寄付
2015年12月
参加人数:60人
田中電子(杭州)有限公司

その他

・GINZA ILLUMINATIONヒカリミチ2015参加【TKJ銀座本店】
・公益財団法人日本対がん協会「乳がんをなくす ほほえみ基金」への寄付
【TKJマーケティング部】
・熊本県と県内市町村を応援するふるさと納税【TKJマーケティング部】
・外貨の募金活動(ユニセフに寄付)【TKK各支店】
・書き損じ葉書の収集(ボレボレクラブ:アフリカでの植林活動に役立てる)
【TKK各支店】
・福祉施設「若楠どんぐり村」パン訪問販売への売上貢献【TD佐賀本社工場】
・佐賀赤十字血液センター献血バスによる献血活動(400ml)【TD佐賀本社工場】
・資源の回収プルタブ25Kg、ペットボトルキャップ13,140個寄付
【TD佐賀本社工場】
・献血活動【TEM、TEC】

地域清掃活動



工場および周辺の清掃活動
2015年6月
参加人数:30人
田中貴金属工業株式会社 平塚工場



工業団地での清掃活動
2015年10月
参加人数:6人
田中貴金属工業株式会社 筑波事業所

その他

・「河川クリーン作戦」【TKK伊勢原工場】
・「相模川の清掃・植栽活動」【EEJA、TKK湘南工場、TKK平塚工場】
・銀座中央通り一斉清掃【銀座本店・本社】
・工業団地クリーンキャンペーン【TKK岩手工場】
・工場・支店周辺の清掃活動【TKK富岡工場、TKK名古屋支店】
・市川港協議会地域内清掃活動【TKK市川工場】
・工業団地一斉清掃活動【TD佐賀本社工場】
・環境保護のための山清掃活動【TEC】
・地域清掃活動【TD佐賀本社工場】

地域文化活動への参加等



仙台三社まつり
2015年7月
田中貴金属ジュエリー株式会社 仙台店



自衛消防訓練審査会 第3位
1号消火栓特定用途の部
田中貴金属ジュエリー株式会社 銀座本店

その他

・積極的な防犯活動(年数回の協議会に店長が参加、交通安全等ボランティア
にも参加)【TKJ名古屋・栄店】
・打ち水活動(丸の内周辺)【TKK東京営業部】
・地域安全運動【TKJ】

2016年度の活動から

「平成27年度東京都スポーツ推進モデル企業」に認定

TANAKAホールディングス(株)は、平成27年度に東京都が創設した「東京都スポーツ推進企業認定制度」により認定された企業
102社の中で、特に社会的影響や波及効果の大きい取組みをしている企業13社の「東京都スポーツ推進モデル企業」として選出
されました。

平成28年熊本地震義援金として寄付

平成28年熊本地震義援金として「熊本県健康福祉政策課福祉のまちづくり室」に一千万円を寄付しました。

愛の絆 桜の植樹135

東日本大震災以降、東北復興支援ボランティアとしてさまざまな形で活動を行ってきました。2013
年度より「記憶の継承」をテーマとして継続的な支援活動を開始し、3年目を迎えました。避難の目安と
するために、津波最高到達地点に、桜並木を作るために社員の募金による植樹活動を継続的に行いま
す。創立135年を迎える2020年までに135本の植樹を目標としています。135本の目標植樹本数に対
し現在までに84本の植樹を行いました。



2014年3月に植樹した桜



2016年3月の植樹風景

TANAKA NOW

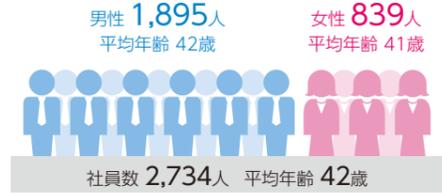
愛の絆 桜の植樹135に参加

東日本大震災から5年。忘れてたくない、忘れてはいけないという思いで、暖かい日差しの中、木をふん
だんに使った明るく素敵で特別養護老人福祉施設「杜の里」で桜の植樹を行いました。昨年植樹した
桜の、しっかり蕾をつけている生命力にどれほど力を与えてもらえるかを実感し、また地元の語り部から
聞いた震災の状況に、だれもが被災地に足を運ぶ必要があると強く感じました。「日本全体が震災の
悲惨さを忘れていて、必ずやってくる大きな地震に備えることが大事。」の言葉が印象深く、今も心に
残っています。

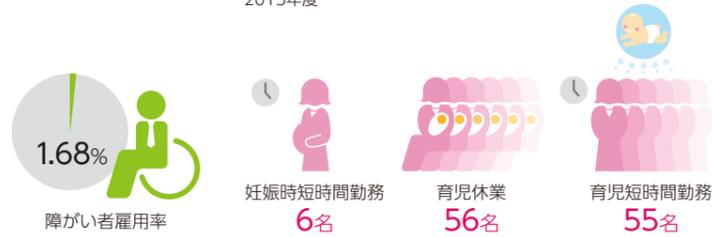


TANAKAホールディングス株式会社 社長室 松山 美穂

【従業員数(国内)】
2016年3月末現在



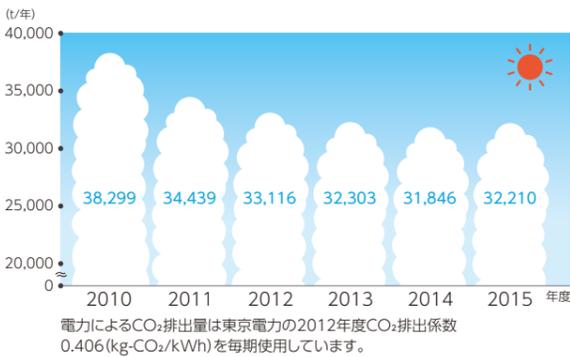
【育児休暇等制度の利用人数(国内)】
2015年度



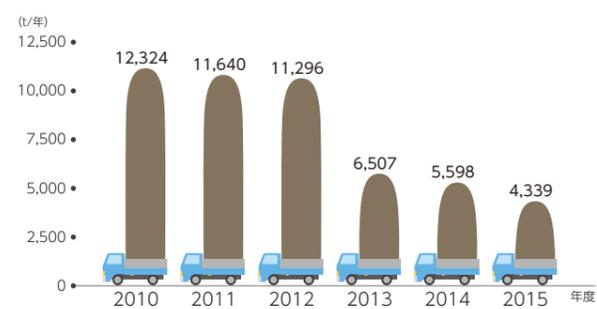
【労働災害、交通事故発生件数】



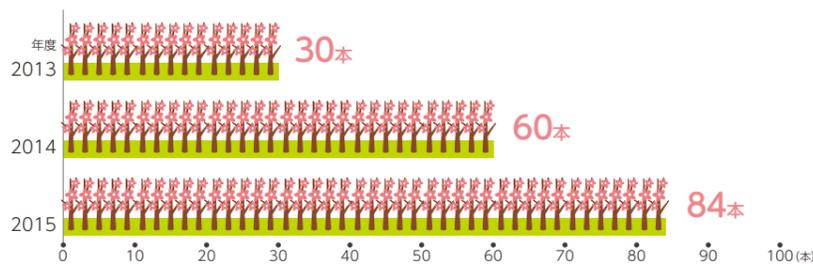
【CO₂排出量】



【産業廃棄物排出量】



【東北復興支援ボランティア 桜の植樹本数(累計)】



【国内新規特許登録件数】
2015年度



独立第三者の保証報告書

2016年6月23日

TANAKA ホールディングス株式会社
代表取締役社長執行役員 田苗 明 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史

1.目的

当社は、TANAKA ホールディングス株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、「CSR 報告書 2016」22 頁掲載の 2015 年度の環境パフォーマンス指標ならびに社会性パフォーマンス指標（以下、「各指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、各指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。各指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2.保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問
- ・算定方針の検討
- ・算定方針に従って各指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3.結論

当社が実施した保証手続の結果、各指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上



清水 正道

筑波学院大学客員教授、CCI研究所代表、日本広報学会常任理事、日本パブリックリレーションズ協会監事、環境カウンセラー

【略 歴】

横浜国立大学経済学部卒業、日本能率協会を経て淑徳大学国際コミュニケーション学部・経営学部教授。2014年退職しCCI研究所設立。専門は環境／CSRコミュニケーション、広報マネジメント。主要著書に『戦略思考の広報マネジメント』『三方よしに学ぶ人に好かれる会社』『環境コミュニケーション』『人にやさしい会社-安全・安心、絆の経営』『広報・PR概論』『CC戦略の理論と実践-環境・CSR・共生』『会社員のためのCSR経営入門』など多数。

私は第三者所感をまとめるに当たり、主として田中貴金属工業若手工場の視察及びヒアリング、本報告書及びTANAKAホールディングスのウェブサイト情報等を読み・参照の上で執筆しました。

2016年版CSRレポートを読んで

本報告書トップメッセージを拝見し、とりわけ印象に残るのは「今後もサステナビリティを強く意識し」という言葉です。

田中貴金属グループは2015年度に中期経営計画「GOGO計画2020」をスタートさせ、創業135年の2020年において「自由闊達な企業風土」を継承しつつ、「貴金属事業の3本柱」をさらに推進し「グローバル企業」に成長・発展している姿を想定しています。

その具体的な目標である「G30+CS No.1」の達成を目指すために「カンパニー制」を導入するとともに「リスクマネジメント委員会」を設置しました。これは、いわば「攻めと守りの経営体制」を構築したということでしょう。

換言すれば、サステナビリティを念頭に企業活動を行うことで企業の社会的責任を果たすとともに、ステークホルダーの期待に応えた事業を進めることによって、サステナビリティを向上させることを意図しているのだと思われます。

これは大変重要な視点ですので、まずその取組みがぜひ実を結ぶよう期待しています。

それでは各ページを見ていきましょう。

第1に「労働慣行」「公正な事業慣行」のページからは、従業員の皆様の仕事への取組みが、以前にもましてよく感じ取れるようになりまし。これは文字の2段組みや写真レイアウトの工夫、活動実績数字の強調、文章の簡潔化などによって全体として読みやすくなったことありますが、職場の活力も反映されていると思われ。ます。

貴金属のリーディングパーソンに期待したいこと

田中貴金属グループの本社や事業場を何回か訪問・視察して思うことは、「いま現場が動き出そうとしている」という感覚です。現場には、何かしらの「仕事への想い」が詰まっています。しかしそのような感覚は、紙に書かれた行動基準や規格類だけでは行動に結びつきません。

グローバル企業には毎年、世界各地からさまざまな要請が来。ています。これはまず対応しなければなりません。しかしサッカーや野球の選手がいちいちルールブックを持ちながら試合に出。場していないように、さまざまなルールを自らの「共通感覚」とし

第2に「環境」ページは削減実績や取組事例が掲載されていますので、強い印象が残ります。また環境負荷の現状だけでなく「貴金属リサイクル」の概要が入ったことにより、当グループが次世代環境産業の側面を持っていることを表現しています。欲を申し上げるならば、もう少し内容の充実を期待したいと思います。

一方、第3に「組織統治」のページは、私の理解力が不足しているのか、このページはうまく頭に入りません。日常的な経営判断や万が一の際にどのような体制がどうとられるのか、社内の皆様には自明のことかもしれませんが、外部の者にはよく見えません。組織統治のあり方は、「GOGO計画2020」を推進する重要な仕組みですし、日常的にどのように効果的な意志決定を生み出すか、またリスクをどう効果的に回避するのか、経営の根幹に関わる部分ですので、ぜひ分かりやすくまとめていただきたいと思います。

第4に「消費者課題」と「コミュニティへの参画」のページについて申し上げます。毎年事業場を視察してきましたが、それぞれの職場はよく統制がとれ、淀みなく流れる川のように仕事が行われています。その一方、これらのページを拝見すると、各事業場の社会貢献活動は時期、形態、範囲などさまざまです。

一人ひとりの従業員によって担われる「仕事面での統合性」と「多様性に満ちた社会活動」、この両面の活動をもっといきいきと表現できないでしょうか？ 私はそれこそが「GOGO計画2020」達成の源になるのではないかと思います。

て落とし込み、チームで共有していかなければ、恐らく川の流れのように仕事はできないでしょう。

本書は、グローバル企業を目指す当グループの多様な人々が、どのような価値創造を目指す企業になるのか(そのありたい姿)を毎日の仕事での実践の中で確認する手がかりとなるものです。当グループのコミュニケーション活性化活動(チャレンジシップ活動)を続けているトップから第一線の社員の皆さまが、本書を通じて、多様なステークホルダーの方々と「対話の場」をたくさん設けてくださるよう願ってやみません。

田中貴金属グループより

GOGO計画2020が本格的にスタートした2015年度は「カンパニー制」を導入するとともに「リスクマネジメント委員会」を設置しました。これらは清水先生の御言葉をお借りすると、まさに「攻めと守りの経営体制」であり、トップメッセージにあります田中貴金属グループが200年、300年と事業継続するための大きな布石となります。今後もサステナビリティを意識した活動を行い、ステークホルダーの期待に応えていきたいと考えております。

2015年度版のCSR報告書ではグループのCSR推進活動を掲載する上で、特に昨年度の読者アンケートの結果を反映することにより、興味深い・読みやすい内容を目指しました。「従業員の皆様の仕事への取組みが以前にましてよく感じ取れるようになった」という清水先生のコメントはまさにその取組みの成果であると感じております。しかし、一方では組織統治など新たな取組みを進めている課題に関しては、まだまだ理解していただくための工夫が必要であることをご指摘をいただきました。これらにつきましては次年度以降の改善点として受け止め、さらなる改善を進めていきたいと思。います。

最後に、田中貴金属グループがグローバル企業として躍進するためには「一人ひとりが共通感覚を持ち、仕事への想いを共有できることが重要である」ことはまさに我々の目指すところであり。ます。本CSR報告書が「一人ひとりの仕事への想いの共有」とステークホルダーの方々との対話に少しでも貢献できればと思。っておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸甚です。



TANAKAホールディングス株式会社
執行役員
CSR・広報本部長
川岸 哲哉

編集方針	CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に向けたCSR(企業の社会的責任)の取組みをステークホルダーの皆様へ報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。2013年版よりデザインコンセプトとして新しく採用した「贈り物」を継承し、わかりやすく、読みやすいCSR報告書を心がけて編集しています。2015年度は、環境・社会のCSRパフォーマンスデータの信頼性向上を目的として第三者保証を受けています。皆様のお声を田中貴金属グループの今後の取組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。
対象期間	2015年4月1日～2016年3月31日 但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。
対象範囲	TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。
発行時期	2016年7月
参考ガイドライン	(一財)日本規格協会「ISO26000:2010」
ウェブサイト	本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、下のウェブサイトをご利用ください。 http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html
発行責任部署	TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部 〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階 TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508 ホームページ http://www.tanaka.co.jp/about/csr